

外務省

外務省

丁巳七月二日

一今度亞米利加使節請求小係る登
城兵交易を可被許小付評定一座小取調
を被命

父子

左衛門尉

民部少輔

下野守

藤助

- 一 亞米利加東出府之儀 稱法治室の成り
能るハ不遠可也 召呼可也 右之分給心
附可也 ハ 委細可也 可也 中少事
- 一 道中海陸両極之内 一ツも可也 然我之事
- 一 途中附海人取給向之事
- 一 滞留中旅宿並警衛向之事

- 一 非常之節 在堂向之事
- 一 遊歩并法踊之事
- 一 宅内 塔加禮之節 礼式之事
- 一 在梅場可并 暑服之事
- 一 加銀之の并 程くよき 贈物之事
- 右ニ 村京都并法三家方始向くハ 達案ハ
取調可也 申
- 右法達之趣 為申達 以三日 候迄 申出立之
事

十路

推十八ヶ月以上と申達は保共案子取細方
可の届成其心掛念至極之事ニ甘被碎移心
期限成丈事延延の格致一彦の事

七月

下田奉行一申達は蓋廿

初々条家出府取新方の候ハ已也之通可
在心得の二ヶ条交易は取写港替年月日之
候可成文不取極方可然保案子取控場在
二十五の十八ヶ月以上を期限と以て候
候可有心得の事

七月

丁巳七月二日

下田奉行口

亞墨利加官吏出府之儀何也也 所免許相成
 候積所治定ニ候在然友吏も 粗采知ノ通宣承
 已未之申制度を被改儀事ニ開港已来 回合も無之列候
 居合事も不仍此節被召呼候儀云々 兼候間其段中
 開候所可被致候且又宣云々 事件取了候為所判物も
 被下置候處可申立期ニ至了不申立其儘ニ時り也 補了

小 務 目

候儀者何分不可然候間重大之事件ハ候ニテ其ノ可成候
 必右ハ此方推量ニ通テ交易并港務之儀ニ其方元内政權
 之場合ニ即答可成候ト申候ノ御取飾ニテ交易之儀ハ
 之取用候積譯決ニ相成仕法事百期中ニ有之其方為
 長時表トモ申候人出張文 仰付候事トの
 儀ニ身大元見留ニ候儀トハ早速由差拜
 之儀ト由港務之儀ト其積ノ業ト由譯決相
 成候儀得トモ場所の儀ト其方元内政中ニ
 此方不致候間右西條トモ西朝出来候上ハ
 猶獲致トモ早速可及談判員可被申候儀若

又右之通治定相成候トモ其方トモ此程權
 之儀交易并港務の儀直ニ條約可成取替中
 出候トモ日本全國ト係リテ大事ニ百年餘
 之儀制禁被處の儀ニ而其方元内政ト係リテ大
 名ト下ニモ其方通達致トモ其方ニ而政府の
 大儀トモ其方致候ニ甘下田奉行場合ト雜
 及決御儀ト申候候可成致候
 別段亞墨利加官吏出府号之儀別爲ト其方達
 候儀トモ申候候トモ其方不致國命雜留
 候儀トモ是非此方都出府國書御直ト可差上

如 承 旨

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

丁巳七月

和 箱館奉行 由 送付 出取
箱館奉行 白

申付
 申付
 申付
 申付
 申付
 申付
 申付
 申付
 申付
 申付

箱館港に去り年六月中旬より台元閣に官吏
 差置を候し由表二知りし西奉行加官吏と法判
 上條の如き先達の申付と通規定出取に替り

本海客等ニ付ライス義今更差度差候也出来
 寄敷者名古規定出為其誓本海客等ライス旨
 等々申法未年六月西原利加由より分給下官吏
 差裁者ワライス後主差度一差候其而法未及
 以置者極下は改有文吏連之先是延之振合ヲ以
 飯止肩為改置之申候具又下官吏位居向在亞
 弟利加土人差置者場所等之候之後客不本家地
 不見立之得筋等之候厚く勤事上加之存本同候
 極下は改有事
 古之通書其等下は得之書其事

丁巳七月三日

備中守殿申渡

下田奉行止口達之覚

朝鮮之儀者從來隣好通信之國ニ而慶長年間
 明和度迄彼國之隣好と修一候為信使参向圖書
 差上候節者連綿之江戸江被 召呼申行禮首之
 候慶呂々不都合之儀有之寛政年間西國隣好誠
 信簡易有難之儀と講定致し文化度ニ至り朝鮮
 接近之對州ニ於て信使接待有之圖書受取渡り

水務

無滞相濟隣好誠信之道者更ニ相變候儀無之事
 ニ候右跡慶長以來相續江戸未聘者朝鮮信使
 一諸般不都合之事ニ有之故隣好誠信之儀ト講
 定致一對列限之御行禮ト相成居候事ニ付西墨
 利加國分之書翰江戸止持參受取ト申者何分不
 相當之事ニ候間是等之趣官吏江申聞候而宜事
 ニ致被存候ハ、能々合点參候様誠實ニ說得被
 及候方可然候事

七月

此書續々泰平辛表ニ編安政四年下巳七月三
 日ノ條下ニ此書ヲ載セタルドモ既ニ是月二
 日ニ出府台許治定ノ達シマリシニ反シ翌三
 日ニ出府抑留ヲ說諭アルベキ所謂ナシ悲ラク
 ハ先是ノ說示ナラシカ姑ク辛表ノ月次ニ從
 ヲ干此載ヤ後日ノ考訂ヲ俟リ

丁巳七月八日

信濃守出羽守於法用所亞圖左史と及對
話時趣左之通

一 庶族巧畢

信濃守

一 疾風越しうつ交通中不時の暴風雨降ゆ
等々支存外子不殊に執政阿教伊勢守
卒去々々意如延着致し時修遠々々可有
之時

古史

十
カ
目

分
務
一
卷

一 奉伺のハ甚恐入の儀ニ由望也

信濃也

一 先般出府以多ハ其ニ甘而ハ意篤を以テ

厚ク拜候以多ハ其得とも素ク風土も違

ハ國政も異なり所計兼ハ儀も有之其得

とも進ク意篤の場合より總忠かよふ

存ク也

左史

一 函名仕也

信濃也

一 先般申上出府之儀ハ國命難成止世條

儀事情ニ甘衆議の上格別之存を以テ左

使出府の儀ハ函名仕勿端右ニ甘而ハ不

く申候儀有之ハ國の使者を以テ

在富方おつても貴國ノ對シ禮節の次第

号是是取柄も有之其旨只今出府と申候

ニハ取柄兼在勿端兼也

大天ノ御直ニ可量上垂給之儀國政

事之筋有之其ハ中儀ハ難成儀在存貴

國之極人ハ其筋ニ由決而世之日本ニ由

ハ都の執政と望遠 國君ハ其直ニ望

其後ハ其之其旨其隨着而中入置也

多矣

一 出立立前ハ其擧格ハ別後相形候事之

也

信濃守

一出立立前ハ其當無自分とも素極詰取候積

再三意為こおふ候儀と有今取信濃守

出府厚く評議之上其許出府之儀極意候

儀 其末出立前之事意候儀ハ有而取

然る也

多矣

一 當時の如國事務宰相ハ何と仰其意

也

信濃守

一 堀田備中守と申也

多矣

一 當時ハ其位候守候出羽守候、素極

意上其も江戸ニおのり候中守候、其

出立候も趣意ハ同様ニ有之取置巴西

之方ハ先奉柄と國王取扱の儀也之教
 乙執政取扱の儀とモ外國人國命を授
 け給ふ書翰ハ事務宰相列座のト他國
 の使節出國命申述宰相ト不相成
 二國王ト差出シ中仕来リテ國々
 法王等國王等出望執政列座ニテ國
 王後取相成の儀ニテ勿論右書翰差出
 け三四日以前官と宰相ト差出の儀
 付テ其本書國王後取の第一書翰の意
 味合粗面也ト有之御扱扱ハ其國之

外務省

風々々異同ト有之を得とも更々禮節
 を以テ意有之の儀ハ各國一般有之
 本々別々の御國柄ト有得とも当今の
 時勢各國之法交々之有ハ其儀之法
 國柄も亦立中々條約為取取務相
 此トハ法交々不立本儀ハ其儀も亦
 實意の法交々有之ハ其儀の法交々
 尚更立立の儀ト法交々一人世所
 其在中立の儀ト法交々其儀ト法交々
 其儀ハ難有之トモ法交々其儀ト

十一

而時時為不宜誠合衆國とある為多は
實に之の成り方往々平穩の候と存
也

信濃子

一 一 應有之は望み得とも 政屋巴海各國之
習風と違ひ日本ハ日本の國風有之政事
は拘り取扱蓋し候ハ何分難致尤礼節と
不盡儀ニ決り世之望餘義次第厚意
有之候也

左主

一 此國風を托し候ニハ世之亞國一
一 意篤を由り候成り候ニ候ハ
直ニは諸國相成り候仕度亞洋各國何
處も等出候候有之候

信濃子

一 亞洋各國右之通ニ其共日本ハあり候
何事も執政を等置直ニ國君ハ等ニ候
ハ何分所難く候

左主

一 二百余年昔ニハ可有之ホルトカ人

十
力
育

國命を授け日本、後年國君、中直に委
能き出、度は唯出、出逢、有之、あり
已傳也

信濃守

一二百年以前、其共國其内、は後取
と申儀、決り世之何色も重臣の取扱子
有之也

左史

一江戸表、長出、常ハ國命も有之事務
宰相同様之は取扱、は下り也

信濃守

一和親、成、終、は、日本の國政、是、支、は、應
ハ、勅、有、之、可、就、事、と、有、也

左史

一、世、は、魯、西、亞、國、英、佛、多、結、大、國、と、有、也、蓋、海
を、置、ハ、は、儀、傳、の、有、之、可、就、事、と、有、也、
取扱、は、向、ハ、必、要、意、可、生、素、と、有、也

國事、は、是、也、と、有、之、可、就、事、と、有、也、
事、と、有、儀、ハ、取、扱、ハ、法、居、之、儀、ハ、難、心、得、
也

十一 文力

信濃守

一 自今後昨年来より進々懸賞を乞ふ所あり
の及利合の儀にて既今般出府のく
只許出府之儀あり置か奉に初成の書翰
ハ市直に不差出候自分江戸表にあり
言とのうらむ置か奉只違原く勘察に候
在存也

空吏

一 出立の儀 國君一政直より出立の儀
と申候ハ候に申上置か候ハ由望也

信濃守

一 國君一政直より書翰可申上と候儀に廿日
分出府の儀に候に候に廿五日の江戸
表に届出書翰可申上と候儀に廿五日
と申ハ當所の支取に廿五日の國御難
取止の右之慮可申候為の由存候
候に有之也

空吏

一 貴所様ハ私出府之儀概初は書翰
候ハ候も何分西洋各國同様に候也

外務省

右ハ亞國のミマ之魯佛國等々々右
極の儀と云ハ逆もあか不仕也

組頭の名の一回返席

信深寺

一 自今共傳ノ意篤之云々ハ中認爲儀有之

其旨更詳ニも殊實ノ中語外異其程以多

ハ必也

本妻

一 函を仕也

信深寺

一 大統領の委給 國君ハ此左ニ此更取

有之儀ハ政事ノ事障難ハ成ト云々味

ハ一ト通ニ云々漏ハ相成り委裁ニ此得

とも云々来日本ハ討取の國ニ云々大小之別

候有之國象の大事ノ於クハ其筋之衆臣

と盡ハ其儀ニ云々就ルハ今般更詳出府此

直ニ委給等と改定由日本國ノ取柄式と

議ハ其筋ニ甘向分列候の居ハ名方も不

の届務而施ハ其縁相成ルハ其政事ノ

事障不忠易儀ニ甘此直ニ委給等と此と

十 文力

とて俄に難お成素より政事におおむら
けお成り俄に不承お成事おふレニテ
トよむの途中にもお見お成り有る厚く
西退く申渡り趣きい素直に直しお成
係いお成り格お成り

字更

一日本は独立の國とのみならず
國君の命令と不承と成り文お有之
我保政府におおむら法決衛有之
子細有之事おいづれにも西洋諸國

佐渡

取新に重りお成り、海軍難仕

一日本は海軍の國柄并初候大臣号取扱方之
後即事奉行お成り意就ふに高退く
の中速にお成り同後一体の情實と
一取扱は多しお成り

字更

一初伺お成りお成りとも、諸大統領の
素直國君のお別一人お成り中お成り難
お成り

信濃寺

一 何れの中議共其函利等之ハ庶務を重んず
共其等之儀何れにも國命を不辱す
越後日本政府より亞國政府へ掛る
振る可也

右更

一 此掛合書は等なり相届り申す
之は越後有之なり
通之儀なり是又其等之儀なり

信濃寺

一 粗函本以多一居也

右更

一 函本ニハ一何處也

信濃寺

一 傳聞此事ニ其得とも一ト通し函
ニハ英國を配王那人と廣東府之役人
多押英國を以て其種多取上り
儀なり事起り今叙之次第子
函本ニハ

右更

一 右を以て其の根之に於て之を以て
 ハ是等アヘン一件を以て相争ひ其の條
 約を取結ぶ右條約ハ十五年之後再び
 改正の政様より去年ハ同十五年目よ
 事ハ亦不英人ニヨリボリク國主の
 命今更使節として支那へ送還同國の
 内ヒ一フ、著此更に英國女王よりこの
 畫條約案ニ甘んじ政府へ提出國事ハ
 直に呈出、且其政府おろく條約改正
 とも可致合ホリクニク中迄の事ハ亦

政府の友人出張之と右中迄の事ハ件
 亦難成いつれニも廣東へお廻り女王
 畫條ハ同所、おろく、應梅の友人諸取
 系約も同様其場改正の政令中ゆりよ
 事起り終り今般の次第に至り其
 こと既に支那も五六十年以前ハ英國
 の畫條事直に其取の條有之、其後今
 更相拒み其甚不筋之條にて元來支那
 之方不義より戦争を、其條ハ必定英
 國之大勝に相成り日本おろくも亞

外務省

國のこゝ世之身其佛多時強國をもは
引更に國の依に甘終は思慮中との
ハ不思議之災を引起しうくは累
軍中との

信濃守

一 信濃守之疾今日始と政面守は後列候之
用之む守之は得共益をは取は極多し
度也

藤部出る

及更

一 信濃守のスクーネル船ハ何頃江戶表
一 西多度ハ相成り候

信濃守

一 今日出帆の筈ニ候

及更

一 長崎在留之和黨カヒタヒ一討多者
一 度今夕迄に認り出し候者右スクー
ネル船は此下候極ニハ成候者
要候

信濃守

一 取便ハ 風格も有之 亦 亦 亦 陸便 了 の 方
可 然 心 一 つ 一 つ 一 つ 一 つ 出 次 第 等 之 中 居 可
候

右 主

一 宣 奉 願 也

信 濃 守

一 今 少 々 諒 者 致 一 度 儀 有 之 過 刻 中 入 可 奉
願 の 候 一 概 意 義 而 中 之 可 重 大 の 事 件 可
函 可

右 主

一 中 上 度 可 得 共 是 刻 了 了 是 仰 可 通 可
取 扱 可 而 可 出 府 可 難 事 定 然 可 之 一 何
分 難 中 上 可

信 濃 守

一 既 子 是 達 而 可 中 立 可 通 奉 願 一 条 一 字 可
可 重 奉 願 可

一 仰 者 可 照 應 之 上 自 分 共 一 可 中 立 候 可 有
之 只 今 少 々 可 趣 意 可 而 左 何 分 心 可 難 可
候

右 主

一書翰之一条は取扱取極め上りて
難中とす

任達

一既子之証を許さず申立を廢し以て任達
出府之と違致を取扱の儀に不拘兼申
之時重大の事件ハ書翰の由若く照應の
と自分とも一而中立と成儀ニ甘言所
知少く悉く其様及言と成儀ニ而令
兼ふの中立と相違致し其ハ格別ニ
御書翰ニ對し自分共役難致とす

言更

一何れは申違ふニも其取扱出府仕
出書翰を以直ニ申立其為り有之
政方一申立其極ニ而ハ出府仕
申立其極ニ而ハ出府仕
時宜ニ至りて出立其極ニ而ハ
いつれにも委頼於人之儀ニ初今條ニ
甘言其録書翰之と重大の事件ニ申立
心得兼ふ其別名仕其極ニ而ハ

任達

外務省

一 右の如く、如事申争ひ、お成何分認者い
多し、難し

左更

一 初々條と申す、書翰之條、右之條

何れ判じ、海の上より、二々條、難

掛江戸表、戻出、お上り、お何は取扱可

お成敷

信使中

一 右の如く、退く申出、通りは直、お上り

偏し、難お成可

左更

一 左の如く、先刻の如く、と同極之條、お成可

信使中

一 右の方、おの如く、右極取扱、お上り、同極と極

し、お係、お決、お上り、お上り、お上り、お上り

お上り、お上り、お上り、お上り、お上り、お上り

相商、三、禮節、お上り、お上り、お上り、お上り

掛、お上り、お上り、お上り、お上り、お上り

く、お上り、お上り、お上り、お上り、お上り

左更

外 勤 書

一は輕蔑の法取計に於ては存心學共
 善國の冠多ふは國柄との法取扱と
 相悖る係ハ存心學一體盡心之係ハ重
 臣との引合に於て國策と大統領との
 引合に有之國命を托するに私身
 分難お備せざるに不中而お居立お由
 ハ私罪に於ては存心學仰上候にか每
 くお

任徳也

一右ハ日本の國柄との政事と取立之互に

誠實を以ておしハ國政に拘りお係と務
 て申立らるるハ起意とも存心學は
 在ま

一日本政府は多岐に何分獨立國とい不
 存心政府におおく政府之思召通し
 之法取計は成業お極との定る何事
 此の屬國と存心學右極思召之念ハ奉
 忍入お守とも此英佛魯國等之國に退
 くお極之軍節に申立右極之法取計に
 るハ向後必々其争端を以て係との波

細之事は其之の別にしては其の中
とす

信濃子

一 支那之例を引かんと輕蔑以て之を
心得るハ事柄の違ひ何事も逆意と
取扱は候も其後多取は候も其國一
教の相違之礼節取調中と有之也

左史

一 輕蔑の取扱とハ不存は得とも其直に
事とすを所存は成りてハ出存も仕置

時

信濃子

一 當方の意味を何分徹底不致極子に甘
意發會得の屈は極可及餘者其旨
素も其成りて甘口引名可及也

左史

一 如何極は其意は堅くとも眉翰は直に
其取相成其旨とハ其國の禮節其之候
と其存也

外務省

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

丁巳七月九日

信使等出羽等に於て用所亞圖を交と及對
話の事左に通

一 種族移の事

信使等

一 昨日も中入の通今般出府の上及言の上
次第に善く其許と對話の趣をいより申
立右に甘猶政府の命を信及認事の後
乙其心得の出羽等處所著望日男五月十
七日及對話の事重大之事件に政府へ可

外務省

外 務 省

中主殿誠實の所計有之候ニ甘ふハ双方
 高任之御禮照應の上於前所自かとも色
 う申立と共申付其後も度々の切宜旨為
 取替り上ハ口廻り月曜りの旨のいつこ
 りも重大の事件う申立共申付共ニ甘
 申あ申立候儀有之右利合之心ハ被定
 候儀候と存候
 又
 一仰之通相違申候座候
 位候也

一然上ハ 御判物照應の上共 承り候
 候
 又
 一筆向申上候通 重大之事件之内初候
 係書録之儀ニ二ヶ月之前より申上
 漸く今般河沙汰有之候得とも私あめ
 候ハ 御君一仰直上旨頼等と申上 又急
 度申上置候儀ニ 又右ハ重大の初候
 候ニ 甘先初候係候上 向録申候候多
 候

外 務 省

信房子

一 書翰：不拘重大之事件ハ仰答為照座ノ
レノ中ニ之種ノ前ク申中ノ儀ニ、其之
裁

有吏

一 枚葉ハ有之時得とも大緊ハ矢張書翰
意味ハ可成

信房子

一 前ク申入ル通五月十七日之申立ニ、
政府ハ提出書翰等ニ、其儀ハ一切不

被申立只重大ノ事件ハ、其物照座之
可申立ニ、其申中ハ、其儀ハ政府ノ申立

其儀ハ、其申中、其儀ハ、右様申立ニ、其

其儀ハ、其申中、其儀ハ、其儀ハ、其

有吏

一 重大ノ事件ノ中ハ、其儀ハ、其儀ハ、其

上有之

信房子

一 書翰ハ、其儀ハ、其儀ハ、其儀ハ、其
其儀ハ、其儀ハ、其儀ハ、其儀ハ、其

立派に存す

左更

一 左の如く、書翰の意味は、相分るに於て

任歴中

一 不承をとり可存謂せ之也

左更

一 書翰の意味は、存知せ之に勿論に於て

其重大之事件と申す第一書翰之儀に

而既に書翰を出方之儀申すに於て、重大

の事件と云ふに、有之也

任歴中

一 此方ニ、如何に書翰之儀に不承也

官更

一 四ヶ月に於て政府へ呈出せる書面之内大

統領より、書翰呈出せるに於て、一、尚書

大之事件申すに、積と認有之也

任歴中

一 右の中申すに、如何に重大の事件に於て

つゝ、別意之如く、申すに得とも、あるに

申すに、通し畢竟其許の口上を以て、政府へ

外務省

外務省

提出及言とおは白濁既五月十七日并
其後利膏之心とも其相違よ一昨今も其
申問が儀に而然多と右極多葉を盡し其
ハ甚以之難心得筋と存也

其美

一私の心得ハ大統領委命之儀ハ甘私
より甚面するも其旨十分には答申せし
ハ何分二ヶ条に降し加ふ

信濃守

一右ハ通稱多の違も可有之状ハ心得とも

詰り自分とも是中々懸篤之意を以て認申
おすい其許出府之儀も其許忠相成り
積之儀いつれとも其所々申別合之通り
重大之事件自分とも一沙中申其極致

其美

其美

一其懸篤之慮に而中上然心得とも自己
之儀に申之其旨何分難申上り

信濃守

一自分とも是程前之儀何意とも於当以て

く可函より内閣政府へ中主決着の旨を
越し外務省に有之旨を宛て角外中中務
可致す

多美

一 案を呈出する方の儀を及疎密の別を重
大の事件を中とする起原に有之且是達
の宛定案を為す所智之節下田の事り様
の如何を不識産降する案を呈出は
就る上ハ其後江戸表々案を呈出は
成り申す外儀に定むる函を有之

信書

一 函より

多美

一 在外に在る右様は仰中儀有之旨を呈
十月以前政府へ呈出の書翰の儀先般
岡田備後守様は別座に仰中ハ右様
は可致すよ一就るハ大統領案を呈
取方は手続詳細之儀に有之右と有る
は成すハ大統領に於る甚難念より存
す

信濃守

一 自分共儀も遅く被申立此件、悉く相麻
重大の事件に成致し、至り右儀の事、不承
おのり甚歎念の事、也

左吏

一 信濃守様儀出立前大統領の臺海圖頁
一 脚直より上度と申儀、聴と申上り
様、は些か事務宰相は務取と申儀
ハ何分難相分也

信濃守

一 右ハ昨日より幾夜申入お通の次第何分
とも可侵お筋有之は直より上り申儀ハ難
出来候

左吏

一 右之通は取極相成也ハ信濃守様の御
執計と申出お事と存也

出羽守

一 信濃守申御通同入出府中数日相掛り
お存りの儀因致し取り何事も新式と儀
お儀、悉く取計兼お場合も有之也

是は相違ある金の取計有之なり

友妻

一 遠征前、取置箱之仕法も嘗ては得共

格別之由緒に付一應取置仕籠るは

密談仕籠る支配向は退意有之格仕

也

是より支配向退意

友妻

一 將軍格はは自多中政事は不仕遊也

出羽守

一 將軍家には都の日本國中とは治法進法

事は宰相其外程くは取の事子有之

候

官妻

一 今般出府之候は聴望に相成り共

將軍格はあり大統領の書翰等上

候は難お成り仕仰中右に付申上度

二百五十七年お大政に而上ケレス

二百五十年お阿蒙院人

家康様は是目見仕り二百四拾八年お

十
文
書

ホルトカルの奉行ハンマニエルト人名
駿府ニ而は同所様ノ法目見二百四十
四年前五ヶレノ使節女五ノ書翰は同
所様ノ御直子奉差之時趣西洋書翰中
ノ認有之の時極密と申上り

出羽

一昨日沙中ノ西洋諸州ニ而外國之使ノ
謝ノ禮節等次第柄今一應函ノ度ノ
候
左邊

一使節命ノ文旨翰ヲ急ムク只國ノ政府
一善以多ノ外國事務事柄一盡節ヲ急
之与相屈第ノ頃國主ノ目見出来事
我日限相伺時得ハ節ノ目見出来事
法有之其トノ一字も違ハセ之格旨
翰ノ旨以多ノ右國主目見之節申述口
之の密相伝事出可中時尤節節ト至
高官ノ人事と為 旅館一添ノ案内ノ
中入時必右盡ニ乗添致ハシテ節例
廻リ相義ハ高直ノ人等引ハシテ相所

相通並編の儀ハ使節次及杯の儀節
 一同右に所子居在等程國主對面之り
 一居出國主ハ一同程高き所子居出坐
 叙段け出坐以た臣下ハ其下兩傍子
 匍匐以多一居は使節ハ其間一二入
 加致ハ其より三回程進ミ猶加致ハ次
 左より並進互取後其國主高座の下に
 進ミ直上呈出ハ其後退席初加致ハ其
 一の處ハ賜掛附け居ハ遠海渡來本義
 候ハ休息可致と國主互子其中居立子

退堂行致儀ニ而何をも手控ハ前以
 軍務宰相ハ其在中時尤次之間号ニ而
 饗應寺衆有之ハ西洋語則十二ハ九
 ハ一回極ニ少禮儀且禮節ハ自國主ハ
 其國の禮義子傳ハ其儀使節の心得次
 第ニ出坐其國主一又其由多き臺子
 着座前子帷幕を垂立其候平伏私ハ
 賜掛を賜ミ禮相其海次之間子種々
 饗應寺寫有之ハ

出羽

外 雜 書

一 今日談判之趣尚高麗之と進ぶ可及利在
也

存案

一 向率平穩之法取致奉新也

出羽

一 多少許ニ由尚高麗有之度也

存案

一 函知仕也

丁巳七月十一日

亞利加官更對活忠告上高麗中上高麗書

井上信濃守
中村出羽守

去ル八日因九日由用所於之亞利加官更台及函令之致

其作渡之報當原之及合文之及門令其交外冊對活忠

告之上高麗ニ由何分取之理也後亦一國願伏ふ仕且

所判物照應之上高麗中上高麗書大ニ由料也

亞國大統領書管管出方ニ由泥一由也重大ニ由書交

一ニ押在

外務省

夕
和
省

所出ニ著上度吉中出ルニ初吉ケ素ク一溜也
之由府之黄而已由是行書等之執政方由是
お類ク之儀ニ而も西洋各風之取扱ニ振之殊ニ重固
政府ニ威權ニ拍リ厥伏難政多中當古庸中五通
ニ而も類内ハ之餘ニ重大ニ之件ニ滞リ其類類類
中切有之歩出支度ニ為難ニ而も何分念急ニ
撓持多ク此上何種ノ撓振ラ由類或ク類量有以
之般正治後ニ類多ク之有古由類言ヲ以十分
必精力と之ノ様及魂將由振ラは与事為類之對
活虫沙丹由流路多ク上由以上

七月十一日

十
諸

外務省

Blank vertical lines for text in the right-hand column.

丁巳七月十二日

信濃寺出羽寺於法用所亞國交吏及新語
時趣左之通

一應候扱之事

信濃寺

一遣り新語之儀後本同徑共舊と評議以多し此

事此節出府之節五月十七日面會之御被

申中其趣之儀内密可申立重大の事件ハ

考由の證據照應之にお当可自分とも函

可申候入政府一申立置此儀ニ甘今更不

外務省

被申聞其由申傳函より通其儀ハ新成程書
も主儀其儀右等之趣ハ過日ハ申入其旨
其許於ても其趣之由何れハ其旨其事と
ハ存其旨とも何事ニ由於当所自分共一
社中申其趣致其

左邊

一 右ハ過日ハ社仰申其趣之由此上
第度ハ別旨申上其共同極之儀ハ甘言
早右之儀ハ其旨ハ何れハ申上召其旨

出羽

一 同極の事再三申入其儀ハ其旨とも位
渡り出府致し四十日の努力を以て其旨
出府之儀ハ相整ハ其次第ニ由り其旨
てハ其旨之存其旨之故ハ其旨之趣形
操区ハ申入其旨有之其旨ハ其旨之趣形
其旨之事件被取扱其旨ハ其旨之趣形
其旨之趣形ハ其旨之趣形ハ其旨之趣形

右邊

左邊

一 各証申上其旨之趣形ハ其旨之趣形

統領の委任等については決定不承上
一切裁中

信使

一 通日の中入の通に各藩を出し候ハ重大
の事件と被中事候とハ而中事
為事趣を以政府、對一自分とも中事方
母之候
右更

一 大統領の委任は直子事候は決

事之うちハ委任の許委任の候ハ不
仕と候候ハ信使も届出府前候中
事候ハは堅候

信使

一 先達と引合の節自共全権の場合ハ
之等事ハ於大統領の委任可請取存之
ハ事ハ是非江戸表ハお察不致候ハ難
成合應而して中事信使中出府致
候事許出府の候ハ函送事次第成候候
ニ而御直子事ハ候ハ事ハ其許

出府の儀ハ、毎孟時次第相成り候。ては
直子等より候ハ、事支時得共申許中分も
粗相立り候ニ、廿先書翰の一条ハ、信直共
余の事件ハ、中少時攝政ノ成り

左史

一出府ハ、許志相成り候中、立り候と、は立
り候時、格新思召時得とも、畢竟大統領
の書翰、大君の外、余人ハ、は候中儀、難
成り候ニ、廿出府之儀、申立り候事、て
書寫は、立り候、諸取等之、ハ、中條相立

此儀ニハ、更子等之也

大君ハ、は直子不事出候、ハ、難叶候事
言お、願と申上、是候儀、ハ、是等時尤右、は
諸取之有、廿一、切事構不、自國政府、建
建、ハ、は諸取之儀、務る相、是ハ、不仕候儀
諸、ハ、は法を以、論、ハ、ハ、は更取等之、は
ハ、ハ、難相成儀と、事、是、ハ、

信直也

一大君ハ、は直子不事出候、ハ、は不、成事ニ、廿出府
の、ハ、は執政ハ、事出、ハ、は極中、ハ、は候、ハ、は、

外史

ふを分けの成候ハ早急の難極候ハ只後
未細子申入候事多ク一取扱候旨於方
も勘極有之候也

左史

一此仰候の相違ハ此堂候旨何と云
扱下申上申通以申届下候也

信濃也

一帝上との論之ハ僅之儀ハ相少候旨共
何分許多之旨有之既ハ信濃申出府の
儀種々衆議を奏一候旨共直事之也

儀ハ難成事ニハ難易ハ難事可分候也
是子も意旨の違以申入申通候儀有之

度也

左史

一自國政府ハ出會有之候格別左も申之
ハ此何様候儀候旨と云

大君之御余人一書旨候旨申上候儀ハ
難仕候旨とも云候旨切子仰之趣も
有之旨ニ甘旨と勘極仕候旨第一極可
申上候旨申上候旨申下候

外 文 書 館

但組織外區堅

左史

一右書臨於江戸表

大君一申直子差出候後は申高相成候

々密事のは認書と直子於高相候は

所様一申上右に候は申高相候は

是迄の認書と直子一左之通

一江戸表へ出候候禮節と直子一候

候中 大君申目見有之右候席に

ハ世界中に君上一進賜之節取候

伊比と重き礼節と盡し一通口上中

上は通稱候子為候は盡臨取之第一号

之執政一旨と申上候

大君は為候何と候は會候は直子とは

暇中と退散候逢下田一候候申上候

事件来候申上候候候候左候候候候

直子可申上候候大統領候候候候

通の取新候候候候候候候候候候

候候候候候候候候候候候候候候

外務省

此兩極可致其進甘莫佛之圖、上
 已使節等出外節令既出故其
 規較之於此亦、決而波皇中、以
 有之、多蒙其尚、內、種、思召
 有之、此端、可有之、其得共、子、取、
 其或、法、母、之、其、右、何、取、用、其、成、其、
 核、分、左、也、其、之、何、何、核、其、其、其、
 其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、
 又、其、其、其、其、其、其、其、其、其、
 其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、
 其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、

外
 種
 書

下也

一、此目見之節の口上、其、其、其、其、其、
 大統領存之、其、其、其、其、其、
 一、可申通、其、其、其、其、其、
 一、是、其、其、其、其、其、
 其、其、其、其、其、其、其、其、其、
 其、其、其、其、其、其、其、其、其、
 信、其、其、其、其、其、其、其、其、其、
 一、其、其、其、其、其、其、其、其、其、

外
 種
 書

方におめくも懸考以て猶四日とぬ
醫と司名おね可致也

虫達

一書海之儀申立およそ三月十一日
相成致羅巴之風子以てお尋ハ遅延
之よりいつれハ端端さ一延ハ場合
お尋とも兩國ハ星途外國と云ふ由
お尋之語則之状況と不意の事よと何事
もは手敷のミ相掛りせ候迄引お成り
段取とも雅兩お仕お尋右考之儀ハ不

急 お和自國政府へ返々申立お右
申立ハ延々やふ事して盡極なあり
兩病仕也

出羽

一巨細の事まゝ被申中意存あり申立
右事由二百年之渡國ハ國取取向お小
不幸馴とて海よと至近ハお思召お儀也
可有之話審申入お侍達等之儀ハ勿論
とハ違ひ自分とも色敷人召違敷政等
至りお尋ハ平常府内を通行しつゝおに

水 文 書 目

ニモ臣者數十人前後と導權一馬也二三
匹之考事教而禮者も若し準し西洋諸國
之風習といひ給ふ事幸しく候何事も重勝
し有之候

女史

一 御事馬三匹匹有之候由御事、御

事ハ何國も同様之儀ニ決置候

出羽守

一 畢竟各國禮儀と重く候よし自然に重

くも相成り之國々習風有之其國之如く

洞素ニ其之儀と語入候儀ニ有之候

女史

一 在儀ハ西國の馬儀何卒不尺前候様ハ

多し候儀ハ其之手と倉新居中候

出羽守

一 右ハ馬儀之極ニ而厚意候自分とも子候

ゆゑも同様御居候ハつれにも申上ら候

候御事と馬御之上尚何れ引合候様可致

候

女史

外務省

一 函に仕りぬりも今日同極分当法一
展出可申也

外務省

丁巳七月十二日

備中子殿

亞米利加官吏及通商手続中止の事

井上信俊
中村出羽守

今十二日所用所為のて亞米利加官吏、及
面會猶同人出府之と直に書翰多し故と
の儀難出来且重大之事件ハ業而引會之通
商当地に共限し可函等務に課物を以て
其更何分去ルハ日九日由日中間の趣と同
在申張函を不仕進し引會之趣を以て可成

外務省

土島殿に於て且官吏限り已も有之れと
 中中が格申謀り格別懸望之處、而赤心
 と成し可及認判右ハ大統領之書翰
 御直に呈し度との儀ハ彼政府おのゝお氣
 成事ハ其母之世界之法を以 御直ハ其
 取成可然と存れ由希ハ右書翰 御直
 子呈し其儀私とも呈取急出奉れと、重
 大之事件出府より下田に於て可中と分兼
 而中中呈其儀ハ甘稱右之通治定仕其亦
 ハ今既引居之趣呈官吏限り別庭島殿以

多し其意、而ハ出府之ハ其禮を違件象
 上意其弟おのゝ大統領層翰執政方一呈し
 其格可仕尤左相相承り弟ハ重大之事件呈
 在下田一立度より上 格共一可申問右有條
 之内ハ一ハ一成とも決着有之其格ハ多し
 度此上ハ其儀呈御、而由取捨以し其儀ハ
 難成成院決心之趣申問向分今既其沙汰之
 次第其堅め得とも右治定不任内寄部重大
 之事件のニ成り其場合ハ難至奉存其猶
 引除極極之ニ取新方呈其心持ハ其

外 系

此堂の得共先此取不取敬申上置の對話ハ
取調出来次第是の取柄可仕候以上

七月十二日